

山木 幸三郎 やまき・こうざぶろう
 ジャズ・ギタリスト, 作曲家, 編曲家 ニューハード

〔生〕1931年(昭和6年)4月18日

〔出生地〕東京都港区青山 [師] デイジイ・ガレスピー [学歴] 市川工卒 [団体] 全日本アマチュア・ビッグ・バンド協会(理事), 日本音楽著作権協会(JASRAC)[受賞] タユチカタフランス放送コンクール金賞〔1969年〕, スイングジャーナル特別企画賞〔1969年〕「パースペクティブ」, 芸術祭優秀賞(第25回)〔1970年〕, スイングジャーナル特別企画賞〔1978年〕「オーケストレーン」, BOLIVIA Ciudad De Nue STra Se ñdra De LAPAZ〔1978年〕, 海上自衛隊東京音楽隊感謝状〔1987年〕, 防衛庁海上幕僚長感謝状〔1991年〕, 日本芸術祭優秀賞〔2001年〕 ▶〔専門〕Jazz [興味] 日本的主題のオリジナル曲をJazzで [音楽を始めた動機] 終戦、ラジオでアメリカの音楽を聴いて [プロを志したきっかけ] 進駐軍のキャンプ慰問 [初めて買ったレコード] HR-134 EV デイジイ・ガレスピー・オーケストラ [好きなレコード] Jazz Legends. DIZZY GILLESPIE [印象に残るコンサート] 1974「モンタレージャズ祭」(カリフォルニア) [生涯の一曲とその理由] デイジイ・ガレスピーの「マンテカ」 [印象に残る人物とその理由] デイジイ・ガレスピー、その人柄 [次に構想している作品] 日本の祭り [代表作] 「かもめ」〔1969年〕, 「仁王と鳩」〔1970年〕, 「妖怪河童 今日処棲也」〔1973年〕, 「振袖は泣く」〔1971年〕, 「カントリー・ブルース」〔1974年〕, 「オバ」〔1978年〕, 「アート・ギャラリー」〔1979年〕, 「日本山王音頭」〔2003年〕 [趣味・特技] 点描画

戦後、疎開先の富山から東京に戻ってきた際、はじめてジャズに触れる。高校時代からスティール・ギターをはじめ、ジャズ喫茶や映画館などに通い、ジャズを独学。17歳の時には進駐軍のキャンプでの演奏を開始し、山本広運とシャンペン・セレナーダス、榎島靖起とリズムメイツ、グレイシー5などを経て、1953年(昭和28年)宮間利之とジャイブ・エースにギタリストとして加入。1958年同団がニューハードと改名した後はコンサートやテレビ番組、歌手のレコーディングの伴奏など様々な分野で活躍し、バンドの音楽上の要、及びモダン・ジャズ路線の推進役として迫力とスイング感あふれるサウンドを

生み出している。1969年バンドでリリースした「パースペクティブ」で「スイングジャーナル」誌特別企画賞を受けたのを皮切りに受賞を重ね、1970年には「日本の古典的主題による4つのジャズコンポジション」で芸術祭優秀賞を獲得。また1974年モンタレー・ジャズ・フェスティバル、1975年ニューポート・ジャズ・フェスティバルなど国際的なジャズ・イベントにも参加している。プレイヤーとしてだけでなく作・編曲家としても活動し、自らのバンドでも多くのオリジナル作品を書く他、1970年発表の浅川マキのアルバム「浅川マキの世界」では全曲のアレンジを担当し、「かもめ」「山河ありき」などの作曲も手がけた。また、唐十郎演出の「青頭巾」「下町ホフマン」、結城座の「ハムレット」など、数々の舞台で音楽監督を務める。音楽活動の傍ら、1976年頃からはじめたスコア用紙をキャンバスとする点描画でも独自の世界を作り上げ、1986年以降たびたび個展を開く。1994年(平成6年)リンカーンセンター・コンサートにゲスト出演。2001年にはニューハード結成50周年記念するコンサートを開催し、好評を博した。主な作曲作品に「振袖は泣く」「土の音」「Oh! Dear」「千秋楽」などがある。